

門真市英語教育活動事業派遣事業者選定委員会の会議記録

令和4年3月15日

会議の名称	第2回令和4年度門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育活動事業派遣事業者選定委員会
開催日時	令和4年2月9日（水）10時00分から12時40分まで
開催場所	門真市教育センター 作業室
出席者	（委員長）杉本委員長 （副委員長）脊戸副委員長 （委員）増田委員、峯松委員、高山委員 【出席人数 5人／全5人中】 （事務局）島村学校教育課副参事、宇田学校教育課副参事
議題 （内容）	◎二次審査（プレゼンテーション審査） ◎総合評価 ◎その他
傍聴定員	－（非公開のため）
担当部署 （事務局）	（担当課名）教育部 学校教育課 教育センター （電話）072-887-6715（直通）

【事務局】

本日は公務等ご多用の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

ただ今より、第2回門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育活動事業派遣事業者選定委員会を開催いたします。

初めに、第1回の議事録のご確認をお願いします。お配りしました会議記録（案）をご覧ください。お時間があるときに、目を通していただき、修正箇所等がございましたら、教育センターまでご一報ください。

開催に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず、「議事次第」です。

次に資料1「第一次審査結果報告」でございます。

資料2「第二次審査予定表」でございます。

資料3「審査基準」でございます。

資料4「第二次審査ヒアリング項目一覧表」でございます。

最後に第二次審査における選定委員審査表用紙でございます。

お手元がない資料はございませんでしょうか。

本日、委員5人中5人が出席されておられますので、この委員会は成立していることを報告いたします。それでは、この後の議事運営を委員長にお願いしたいと存じます。委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、令和4年度門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育活動事業派遣事業者選定委員会を開会します。

お手元の次第「2 プレゼンテーション審査」の方法等について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、説明させていただきます。二次審査の方法等について、事務局よりご説明させていただきます。

資料2「二次審査予定表」をご覧ください。本日は、プレゼンテーション審査である二次審査を行っていただいた後、一次審査と二次審査を合わせた得点上位者を令和4年度門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育活動事業契約候補者に決定いたします。二次審査につきましては申請順にA社、B社、C社の順にプレゼンテーション審査を行います。プレゼンテーション審査では、申請団体から門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育活動事業に関するプレゼンテーションを15分以内で行っていただきます。その後、10分間程度の質疑応答の時間をとらせていただきますので、委員の皆さんから活発に質問をお願いいたします。

全てのプレゼンテーション終了後、事務局で得点の集計を行い、その後、派遣事業者を選定するための総合評価を行っていただきます。

以上で、第二次審査の方法などについての説明を終わります。

【委員長】

ただいま、事務局より第二次審査の方法等について説明がありましたが、ご意見、ご質問はございませんか。1点だけ確認です。申請団体のプレゼンテーションが終わった後に採点をして、その後に回収ですか。それとも持っておいて、最後に3者まとめて回収ですか。

【事務局】

3者まとめて回収とさせていただきます。

審査用紙の記入について確認させていただきます。10点満点のところ、15点満点のところがございしますが、すべて5点満点でつけていただくようお願いいたします。審査用紙を一度ご覧いただきまして、黒い太枠のところは2倍の10点満点、二重線のところが15点満点となっていますが、すべて5点満点でつけていただくようお願いいたします。

＜ 二次審査（プレゼンテーション審査） ＞

《 A 社 》

【委員長】

それでは、これからプレゼンテーション審査に入らせていただきますので、申請団体を入室させてください。

【事務局】

それでは、これよりプレゼンテーション審査を始めます。はじめに 15 分以内でプレゼンテーションを行ってください。終了 3 分前と 1 分前に合図をいたします。15 分後にタイマーが鳴りましたら、ただちにプレゼンテーションを終了してください。その後、委員から質問を行いますので、簡潔明瞭にお答えください。なお、審査で発言された内容は全て記録され、貴団体が派遣事業者として門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育活動事業を行っていただくにあたり遵守すべき事項となりますので、ご承知おきください。それでは、プレゼンテーションを始めてください。

A 社 プレゼンテーション

※プレゼンテーションについては、門真市情報公開条例第 6 条第 2 号の規定により不開示とする。

【事務局】

時間です。プレゼンテーションを終了してください。

【委員長】

それでは、質疑応答に移りたいと思います。委員の皆さま、よろしくお願いします。

A 社 質疑応答

【委員長】

それでは、私の方から口火を切らせていただきます。

まず ALT の採用についてです。現状海外での採用はストップということですが、資料には毎年 1,000 名から 1,500 名を超える応募があるとあります。これは、日本国内だけで現状これだけの応募者はいるのですか。

【A 社】

日本国内でこれだけおります。

【委員長】

毎年ですか。

【A 社】

毎年です。

【委員長】

例えば、令和 2 年、3 年度について、これだけの応募者がいるということですね。

【A 社】

はい。ただし、応募をするサイトがあるのですけれども、必ずしもネイティブが応募してく

るわけでもなく、英語を公用語としている、もしくは自称ネイティブレベルの英語力を持った方々もその中には入っています。

【委員長】

もう1点、採用時に経験年数として、指導経験を問われていて、最低2年以上とされていますが、この指導はどこの指導をさしますか。

【A社】

指導は日本国内における小学校及び中学校におけるALTとしての指導経験が2年以上という基準です。

【委員長】

わかりました。

【委員】

動画コンテンツについて質問です。新しく作られるということですが、どれぐらいのものをお考えですか。例えば単元毎とかレッスン毎など、どのように考えられているのかを教えてください。

【A社】

はい、ありがとうございます。

中学校においては、文法項目で分けております。1コンテンツあたり5分で、60課題出来ております。先生が使うことが出来ます。先生がALTのいない時に見せることができますし、予習として使うこともできます。そして生徒がタブレットからアクセスすることも可能なようなものにもなっております。小学校用の動画については、テーマ別のやりとりが中心になっています。時間は5分よりも短く、3分～4分で構成されております。

【委員】

ALTの研修の中で、自治体の特徴を踏まえた研修をされるということですが、実際に門真市は英語の学力向上が喫緊の課題となっていますので、門真市にあった活動をすすめていくうえで、このようにしたら門真市の学力や学習意欲が上がるだろうという、門真市に沿った工夫というのは、どのように考えられているのでしょうか。

【A社】

はい、私はALT研修に携わっているスタッフの教務部門の一人であるのですが、やはり門真市の課題というのは、前任からの引継ぎから、意欲的に学習に取り組む姿勢が、課題になっていると考えておりますが、基礎学力の部分というのは弊社ではどうすることも出来ません。しかし、英語との関わりという面では、教科としての英語とコミュニケーションの力ということを経験できるように、こちらとしては、よりコミュニケーションを楽しく英語に触れて

もらえる ALT の選定と派遣というのが大事になってくるものと考えており、学校現場で、子どもたちが喜んで楽しみながら活動できるアクティビティを選んで、現場で指導するように情報共有をしております。ですから、大阪府の課題と門真市の課題というのは、研修の中で説明をさせていただいています。

前任者が学校現場の先生方の声を十分に拾いきれなかったというのが、弊社の中に反省点としてあります。ですから、今回は担当者が責任を持って担当させていただきます。今回予定している担当者は、非常に経験があり、教職を目指したこともある者ですので、現場のことをよく承知しています。ですから、教頭先生、校長先生、また担当の先生方から十分な情報収集をさせていただいて、解決策を提案し、それを ALT に提言し改善していくようなことを期待して、彼が担当させていただきたいと考えております。

【委員】

中学校において、パフォーマンス評価につながるような ALT を活用した効果的な事例があれば教えてください。

【A 社】

パフォーマンス評価という意味では、スピーチやプレゼンテーションなど、やりとりの部分が非常に大事になってくると思います。弊社では、ルーブリック評価表を各 ALT に渡しております。また、各現場の先生にも日本語と英語で併記している評価フォーム、おそらく御市でも準備されているかと思いますが、共通の認識で評価が出来るような指標を準備しております。評価システムは、そのように持っていますし、A 市でも過去にいろいろな経験がございます。例えば、生徒に考えさせてドラマ化するなど、いろいろなアクティビティを生徒に自主的に考えさせて、ALT がそれをサポートしながら、それを皆の前でパフォーマンスをしていくということは、実際に過去にやっています。そういうことを上手く、弊社はコミュニケーションを重視しており、学校現場もそうですし、企業でもとにかくコミュニケーションの重要性を ALT が訴えて、皆さんに伝達していきたいと思っています。話という意味では、スピーチ、プレゼンテーションをよく活用しています。やりとりという面では、グループ活動でのディスカッションだったり、あとロールプレイもしくはスキットに取り組んでおります。

【委員】

わかりました。もう 1 点質問です。小学校で、1 人 1 台端末ということで、門真市は 1 人 1 台持っています。それを使って異文化の体験や人物と交流するようなアイデアをお持ちでしたら、教えてください。

【A 社】

はい。オンラインで、コンテンツを作るということと、オンラインで直接遠方にいる外国人との交流をサポートさせていただいております。オンライン化されていることによって、各学校に ALT もしくは ALT ではない外国人が訪問できなくなってしまうと、海外とつないだ

り、国内にいる外国人とのネットワークでコミュニケーションの練習を提供させていただくことが可能です。

【委員】

具体的に、海外はどちらなのか、国名を教えてください。

【A 社】

はい。よく弊社がやり取りを行っている提携しているところは、カリフォルニア州のX市の小学校・中学校と提携したプログラムを提供しています。もちろんこれは時差等の問題もありますので、動画コンテンツでのやりとりとなるケースもございます。生徒の交流もさせていただいております。それを弊社が、支援させていただいております。

【委員】

ありがとうございます。

【委員】

1 学期あたり 1，2 回の授業見学というのがありますが、1 回ずつなら最低 3 回ですが、毎学期 2 回なら 6 回で、すごく差があるのですが、そのあたりは一人につき何回と決めているのか、指導が必要なところがあれば 2 回行くというようになっているのですか。

【A 社】

1 校あたり 1～2 回の認識です。ですから、現場の状況に合わせて 2 回の場合もありますし、課題のある先生について、3 回目のフォローが必要な部分については、フォローさせていただきます。ただ、1 回の訪問だけではわかりませんし、現場の状況を見ながらですが、全体で 1～2 回ではなく、各校 1、2 回です。

問題があれば担当者が何度も訪問をして、解決策の話し合いをしてということが現実にございます。1 回は最低の話です。

【委員】

わかりました。

【委員長】

今の件ですが、これは無理だという ALT は、臨機応変に変えてもらえるのですか。

【A 社】

はい。門真市において、過去直近の 5 年間では、ALT の交代は発生しませんでした。私が担当している自治体では交代が起きました。その時は、すぐに代えるということではなくて、やはり改善のためのいろいろな働きかけを現場の先生やスタッフからさせていただきます。期限を切って、どうすることも出来ない課題が出てくることもございます。健康上の問題を

含めてですけども、その時には年度途中であっても、学校の現状に合わせて、いったん代替の講師を送る、もしくはしばらく待っていただいて、新しい ALT を派遣するような途中交代の対応をさせていただいています。

【委員長】

わかりました。他に質問はございませんか。

それでは私から最後に質問します。根本的なことを聞きますが、貴社が第一言語のネイティブスピーカーを採用しているということについてですが、今のグローバル的な流れで言いますと、英語を公用語として、第二言語として使用している外国の方は多いのですが、そういった方も指導経験が豊富で、十分な指導が出来る方を他社は採用していると思いますが、それにこだわられる理由を教えてください。

【A 社】

はい。こだわる理由ですが、弊社の創立者がアメリカ人と日本人の夫妻で、今アメリカにいるということと、日本の学校教育現場の教科書やリスニング等の対応として、まずスタンダードな英語の発音や表現に触れてもらうということから、まず基本的なことを提供した方が良さだろうということで、ネイティブにこだわっているというところはあります。一方で今、先生が言われたように、公用語として経験があり、上手に惹きつける授業が出来るフィリピン人の先生であったり、ケニアの先生であったりということは、たくさん全国でおられることは承知しております。

【委員長】

それについて、どうお考えですか。

貴社はそれを貫き、ネイティブスピーカーしか採用しない、それを基にした指導をベースにしていくという考えは変わらないということですか。

【A 社】

時代の流れを読みながら、今後徐々に現場から要望が出てきた場合には、その部分を少しずつ取り入れていくような柔軟性は持っております。実際にネイティブにこだわらないという自治体もありますが、弊社の採用基準をネイティブにしているために、今現在はネイティブの派遣にこだわっているというのがあります。

もしもノン・ネイティブでないと困るとなりますと、弊社も基準を考え直さなくてはならないと思います。そういう人を採用するということもありうると思います。これは経営陣に話をします。

【委員長】 それでは、これで審査を終了します。審査結果につきましては、3月の第一週に通知させていただきます。それでは、今日のご苦労様でした。

【A 社】

ありがとうございました。

《 B 社 》

【委員長】

それでは、次の申請団体のプレゼンテーション審査に移ります。申請団体を入室させてください。

【事務局】

それでは、これよりプレゼンテーション審査を始めます。はじめに 15 分以内でプレゼンテーションを行ってください。終了 3 分前と 1 分前に合図をいたします。15 分後にタイマーが鳴りましたら、ただちにプレゼンテーションを終了してください。その後、委員から質問を行いますので、簡潔明瞭にお答えください。なお、審査で発言された内容は全て記録され、貴団体が派遣事業者として門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育活動事業を行っていただくにあたり遵守すべき事項となりますので、ご承知おきください。それでは、プレゼンテーションを始めてください。

B 社 プレゼンテーション

※プレゼンテーションについては、門真市情報公開条例第 6 条第 2 号の規定により不開示とする。

【委員長】

それでは、質疑応答に移りたいと思います。

B 社 質疑応答

【委員長】

ALT の採用について、1 点確認をさせてください。今現在、海外の採用はあるのでしょうか。

【B 社】

はい、現状海外の採用もございます。今年度におきましても、緊急事態宣言中も特段の事情をご理解をいただき、今年度 80 名ほどが入国している状況です。また来年度に向けて、現在 120 名ほどが既にビザの申請をしております。3 月から緩和される傾向がみられておりますので、順次、宿泊所の確保、送迎用のバスなどを用意しているのが現状でございます。

【委員長】

つまり人数的には確保出来るということですね。

【B 社】

はい。実際には国内採用を中心とした配置を考えておりますが、十分に海外を含めてご用意も出来ます。

具体的な採用人数につきましては、56 ページにも記載がございますので、また後程お目通しをいただければと思います。

【委員長】

もう 1 点、学校現場への授業観察ということを先ほど言われていましたが、授業観察で ALT の資質をどのように測っていくのですか。どのように強化していくのですか。大事なのは、評価をして終わりでは意味がなく、ALT 自身が授業の実践力を上げていくことが大事です。そういうフォローアップを、もう少し具体的に教えてください。

【B 社】

弊社として取り組んでいますのは、授業観察のあと、先生方に 1 時間ほどお時間をいただくをお願いしております。そこで出た課題などを、さらに良くできるように共有させていただきます。その中で実際にやり取りを行いながら、実践的な指導を行わせていただきます。ただ、その場だけの口頭でのやり取りでは、なかなか ALT に定着しない、というケースがあると思います。そういった状況がありますので、その日のうちに必ずメールで ALT に今回の指導のポイントを共有させていただきます。さらに万が一指導力が足りないと弊社が判断した場合には、支店まで 30 分ほどで、車で来られる所もありますので、支店に呼んでフォローアップ研修等をしています。

【委員】

現在、契約委員会数が増えているということですが、貴社に変わった中で、その自治体の感想として、ここがすごく良くなった、反対に前の方がここは良かったので、もう少し頑張っ

【B 社】

まず 1 点目が、よくお声をいただきますのが、運営をしてからのお話となりますが、コーディネーターの質が非常に良い、ということをよく言っただけです。と言いますのも、学校様側のご要望をしっかりと伺いをして、それを形にする。また、結果としてお返ししていく。こういった点は、他者にはないサービスというところで、ご評価をいただいているポイントであると考えています。また、基本的には 1 年目の場合になるのですが、デメリットとして ALT が変わってしまいますので、スタートアップの部分で少し苦勞をしてしまうという点があるということをお伺いしました。ただ 2 年目、3 年目に関しましては非常に評価をいただいております、その点もきちんと 1 年目の中で改善をして、対応が来ているという状況で評価いただいて、引き続きご契約をいただいている状況です。

やはり新たな契約となりますと、ALT が初めて来るということとなりますので、逆に弊社からのフォローアップとして、必ずご契約をいただいた初年度に、ALT と一緒に学校様側にご紹介をさせていただき訪問や、4 月は特に先生方との連絡を密に取りまして、認識の違い等が発生しないように、手厚くサポートさせていただいています。

【委員長】

それについてですが、88 ページに配置可能な ALT を 4 名挙げておられますが、基本的に大阪近辺で勤務の経験をされている方を、重点的に配置してもらえんということは、間違いないですか。

【B 社】

基本的にここに挙げさせていただいていますのは、現在他市で契約をしている方でございまして、その方をベースにご紹介をさせていただければと考えております。

【委員長】

その点は大事だと考えております。門真市の子どもの実態もありますので、ある程度大阪での勤務経験のある方が、良いのではないかと考えています。ぜひ、そのようにお願いします。

【B 社】

はい、かしこまりました。

【委員】

イングリッシュキャンプの提案で、どのような形でそれを実施しようと考えられているのでしょうか。

【B 社】

イングリッシュキャンプに関しましては、弊社としてご提案をさせていただければと考えており、具体的なところで申しますと、夏季休業期間等の時期での実施を想定しています。現在、追手門学院大学様と提携を行って、海外派遣候補生への支援を行っているかなということ存じ上げています。その中でも、教育委員会様とやり取りをさせていただく際に、今年度なかなかそういった取り組みが出来なかった、という声もいただいております。そういったお声を基に、海外派遣候補生に向けて、英語で世界に繋がろうということでオンラインイベント、もしくは対面でのイベントを実施させていただければと考えております。

【委員】

中学校でのパフォーマンス評価につながる過去事例を 125 ページに挙げていただいておりますが、パフォーマンス評価の中でも、ライティングに特化したような ALT の活用の事例がありましたら、教えてください。

【B 社】

ライティングに関しましては、基本的にご要望をいただくことが、直接、当社にはあまりなく、どちらかというとスピーキングに特化したもの、またヒアリングに特化したもので、ご対応をさせていただいております。ライティングの部分では、当社のアクティビティ活動案集に、ディベートを実施する前の準備として、英語でしっかりと書き写していきましょう

とか、そういった観点のポイントが入ったものがございますので、そのようなものをご活用いただければ、ライティングでの対策や自分の考えをまとめる力が出来上がっていくのではないかと考えています。

124 ページの下部に、ライティングの評価支援ということで、抜粋にはなりますが、エッセイ課題を評価基準に沿って、ALT でするので補完的な評価で添削したりコメントを書いたりした事例はございます。やはり最終的な先生方の評価に向けて、先生方もお忙しい中で全てを見る時間を取ることが難しいと思いますので、ALT の空いた時間で補完的な評価の支援をさせていただいたケースがございます。

【委員】

小学校でも1人1台端末を持っていますが、いろいろな提案をいただいた中で、直接画面を通して会話をするというのがありましたが、それはどのようなものですか。2年生3年生はまだ英語が話せないなので、こちらは日本語と英語、あちらは英語になるのか、そのあたりや工夫されているところがありましたら教えてください。

【B社】

過去の事例で申し上げますと、どちらかというと国際交流イベントを今年度、昨年度に、オンラインで実施をするケースが非常に多かったのですが、その中で応募してくる方というのが、その年齢層、低学年層ということになっております。この中で、当社の場合は事前に動画をご覧いただいて、少し心の準備やその国について理解を深め、その国の方と実際にはクイズ形式であったり、文化のご紹介をさせていただいたり、自分の気持ちを伝えていただいたり、ある程度テンプレートを用意させていただき、実施させていただいたというケースがございます。そういった形がよろしいのかなというふうに考えております。

やはりイベントをオンラインで実施する中で、授業で学んだ内容をイベントで活かして、今後の授業につなげるということが重要だと考えておりますので、小学校1年生、2年生、3年生でも触れたことのあるような、英語の簡単な内容をイベントでさせていただきます。先程お伝えしたように、事前の学習もございますので、しっかりと子どもたちも英語で簡単なやり取りが出来るように、ご支援させていただいております。

【委員】

英語教育につながる部分なのですが、門真市の子どもたちの特徴、経済的な部分、家庭的・地域的な部分をどのように捉えておられますか。

【B社】

門真市に限らず、全国でも教育格差があるというふうに考えております。私たちはどちらかというと、そういったものを抜本的に、底上げしていきたいという思いがございますので、そういった意味で当社は小学校には無償で動画をご提供していて、中学校もそうですが、ご家庭で使っていただける内容となっております。今の子どもたちは、英語のレベルが特に格差があると言われておりますけれども、やはり一度分からなくなってしまうと、子どもは英

語が嫌いになってしまったり、また学ばなくなってしまうたり、そういったことがございますが、この学習支援動画に関しましては、教科書やレッスン内容に準拠したプランとなっておりますので、復習や予習、わからなかったことを再確認していただく機会にもなっておりますし、塾や英会話に行かなくてもリアルな体験が動画で出来ることもございます。コロナの状況でマスクをしておりますけれど、動画ですと口元を見て発音の練習などの実施が可能となっておりますので、そういった点でも学習支援動画を無償で、ご家庭でも学校でもご活用していただける、こういうものもご支援させていただいております。今後の動画の本数や内容を改定していきながら、地域の子どもたちや先生方にご支援できるようなものをご提供し続けたいと考えております。

補足させていただきますと、研修の中で、やはり学習意欲に差がある子どもたちに対して、弊社では ALT も先生方と一緒に手助けする必要であると考えております。そういった ALT の指導の補助を、定期研修や配置前の研修、業務期間中の研修を通して学習意欲を高める指導の仕方などを、ディスカッションを通して ALT に伝えたいと思っております。

【委員長】

今の業務期間中の研修なのですが、時間的に確保が来ていますか。例えば、勤務の加減で行くと、なかなか時間が取れないと思います。

【B 社】

当社の場合、学校の勤務日以外に、当社の指定の勤務日というのがございまして、当社の営業日の中で、研修を受けていただいております。夏休み、7 月の後半の時間帯は学校での勤務がございませんので、当社で夏休み 4 日間の研修を実施したり、冬季、秋季そういったタイミングで実施をさせていただいています。その場合、給与をお支払いしていて、必修ということでご参加をいただいておりますので、その点はしっかりと確保は出来ていると思います。

【委員長】

お伺いしたいのは、学期の期間中の研修についてです。そこが大事だと考えております。臨機応変に、タイムリーに対応していただく、課題が出てきたときに指導をしてもらい、フィードバックをしてもらって、すぐに指導力の向上を図ってもらえるのか。そういうことが非常に大事なのですが、そういうところは実際どうなのでしょう。

【B 社】

例えば個別の指導で申し上げますと、ご指摘をいただいてももちろん指導いたしますが、実際にトレーナーが、OJT という形で 1 日張り付いて研修をさせていただく部分もございますし、また先程も少しお伝えさせていただきましたが、それでも改善がなかなか難しい場合、社内での個別指導が必要ということであれば、業務終了後、当社の方に呼びまして、研修を実施させていただいております。緊急時には週末にも研修を実施させていただいて、翌週から改善がみられるかどうか、先生方と確認しながら進めていくということもしております。そういった点も含めてしっかりと確保させていただいております。それ以外で申し上げますと、や

はり先生方からご指摘をいただいてからでは弊社は遅いと考えていますので、月1回、先生方に必ず電話でヒアリングをさせていただいて、ALTに課題が無いのか、それを言われる前にさせていただいております。企画提案書の66ページにもございますとおり、まずALTから自己評価として、勤務の状況がどうなのか、月1回提出をしてもらっています。さらにエリアマネージャーによって、フォローコールということで、月1回面談をさせていただいています。そういった学校の勤務がある中でも時間を確保し、様々な取り組みをさせていただいております。

【委員】

緊急時対応ですが、当日の朝7時半までに遅刻や欠勤の連絡で、対応ができるのでしょうか。もう少し早くするとか、学校側から連絡が出来る24時間対応のものなどはないのでしょうか。

【B社】

先程のプレゼンテーションの中でも、お伝えさせていただきましたとおり、社用携帯を弊社で付与しております。コーディネーターの連絡先も契約後、お伝えさせていただきますので、緊急時にも対応させていただきます。実際に今年度もコロナの状況の中で、夕方や夜の時間に陽性が分かって明日は休校になるというケースが多くございました。そのような状況の中で、コーディネーターに8時でも9時でも連絡をいただいて、実際にALTの勤務校を変更させていただいたケースもございます。先程の朝の7時半までということはあったのですが、代行講師につきましては、大阪府内で12名確保している状況でございます。実際にトレーナーも枚方市等京阪沿線に在住している者もおりますので、7時半の連絡が来次第に、門真市様へ向かわせていただいて、代行講師の派遣が可能となります。

【委員長】

それでは、時間となりましたので、これで審査を終了します。審査結果につきましては、3月の第一週に通知させていただきます。ご苦労様でした。

《 C 社 》

【委員長】

それでは、次の申請団体のプレゼンテーション審査に移ります。申請団体を入室させてください。

【事務局】

それでは、これよりプレゼンテーション審査を始めます。はじめに15分以内でプレゼンテーションを行ってください。終了3分前と1分前に合図をいたします。15分後にタイマーが鳴りましたら、ただちにプレゼンテーションを終了してください。その後、委員から質問を行いますので、簡潔明瞭にお答えください。なお、審査で発言された内容は全て記録され、貴団体が派遣事業者として門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教

育活動事業を行っていただくにあたり遵守すべき事項となりますので、ご承知おきください。
それでは、プレゼンテーションを始めてください。

C 社 プレゼンテーション

※プレゼンテーションについては、門真市情報公開条例第 6 条第 2 号の規定により不開示とする。

【委員長】

それでは、これより質疑応答に移りたいと思います。

C 社 質疑応答

【委員長】

最初は私からお聞きします。最後の画面に出ていました 3 年間を通して目指す子ども像というのを説明されておりましたが、貴社と門真市は 3 年経っていると思いますが、3 年目の学習者の発信力の向上の目標は、どれほど達成されたのでしょうか。それについて、どうお考えでしょうか。

【C 社】

はい。先生のおっしゃる通り、今 3 年目となっておりますが、この新たな 3 年を見て、私共は今回、ご計画を提案しております。

【委員長】

今までの 3 年間で振り返ってどういう成果か、というところをお伺いしております。

【C 社】

今、講師 3 人が門真市でお世話になっております。どの講師からも、学校での様子を聞きますと、子どもたちが話しかけてくれるようになってきた、というような声を聞いております。が、今、それが全員であるとは言いがたいです。そういったところを考えまして、学校全体で、そして市全体で英語使用を高める風土を作れないかと思い、提案をした次第でございます。

【委員長】

つまり、今までの 3 年間は、振り返りやフィードバックを十分になされてない、ということですか。

【C 社】

そうですね、これまでににつきましては、私どもの中では振り返りを行っていたのですが、これまでは講師が積極的に子どもたちとコミュニケーションをとっているというところが、弊社の強みではあると考えていましたが、常にそこに先生方へのご支援を含めながらいくとともに、英語使用の機会を増やしていくというところに関して、弊社の方から積極的なご提

案をさせていただくところが、今後の課題になると考え、このような3年間の計画を立てさせていただいた次第でございます。

【委員長】

わかりました。

【C社】

これまでも、良いALTを送るということを尽力させていただいたのですが、先生方への支援が、まだまだ不十分だったと思っています。なので、来年度はティーチャーズクラウドで先生方の研修を強化させていただき、先生方の教授力の向上、こういったところも自分たちの責任範囲として、しっかりとまだまだ取り組んでいく必要があるなというところです。ですので、今後そこをより強化をしていくということを込めて、今後の3カ年を立てさせていただきました。これまでで言いますと、先生方へのご支援をもっと出来たのではないかなというふうに振り返っております。

【委員長】

わかりました。

【委員】

3年間、門真市に携わってくれているということで、門真市の子どもたちの実態とか、英語教育の実態をご存知だと思うのですが、その中で来年度を見据えて、教室にChromebookが入っているとか、生徒中心の教室になっているということで、新しい挑戦をサポートするというのがあったのですが、それを考えた時に来年度の門真市の実態を見据えた時に、新しい挑戦にサポートするということで、どういうところがポイントと考えられているのか、授業づくりの具体的なところをお聞かせください。

【C社】

まず、講師が出来ることからお伝えいたします。講師が出来ることといたしましては、学校のクラスの中で、スモールトークをもう少し重要視した授業転換を考えてもらいたいと思います。スモールトークと申しますのは、要するに言語活動ではあるのですが、ターゲット目標となっている表現のみならず、これまで習ってきた英語を総合的に使いながら話をするという内容です。そういうことによって子どもたちが、これまで知っている英語を繰り返し、繰り返し聞く機会が、授業の中で生まれる。それは一人では出来ないので、学校の先生方を上手に誘いながら、そういった時間を授業の中で持ってもらいたい。それが、1つめでございます。2つめは、子どもたちがタブレットを持っておりますので、弊社のオンラインツール等を利用しながら、子どもたち自身が個人でも楽しめるような、そういったものをご提案出来たらと考えております。

（英語発言：要約）ALTミーティング等を利用しながら、ALT個人がタブレットの使用に慣れていく、そしてそのテクノロジーについて学ぶ機会を確保していきたい。発言者自身も御市

で講師の経験があるのですが、今圧倒的に足りていないと感じるものが教室外での英語使用、そういった環境を整えていくというのも ALT が中心となり、提案していくことも出来ますが、会社としても、何か御市にご提案が出来ることがあるのではないかと考えております。

【委員長】

スモールトークは大事です。日本人の先生方をサポートするために ALT と日本人の先生方が共同でスモールトークをサポートしていこうというのは、非常によいことです。ところが、そのためには相当な打合せの時間が必要となりますが、現実にはこのあたりはどのように実施されているのですか。

【C 社】

御市は Here We Go をお使いですね。私どもが先程ご紹介しました、ティーチャーズ クラウドの中に、Here We Go の教科書に沿ったスモールトークのモデルを載せております。そしてそのモデルが話す英語の内容、スクリプトをそのまま Word ファイルでダウンロードしていただくことが可能となっております。先生方のお勤めの学校、そして ALT がこれをこうすればもっと子どもたちに親しみがあるな、そういったことを利用しながら、ある程度の打合せの時間を割愛し、ご提案をして授業に活用する。また、おそらく先生方ご自身で、授業をされる場合が多くあると思います。私どものティーチャーズ クラウドの中には、先生方に研修用で見ていただくスモールトークのデモと、子どもたち向けに発信できる動画が2種類ございます。その発信用を子どもたちに見せて、使っていただくよう、そういったものを授業の中でご利用いただくことにより、例えば ALT の来ない授業の中でも、この人たちが何のお話をしているのだろうね、聞いてみよう、というような掛け声で英語に触れさせることが可能となっております。

【委員長】

もう1つ、そこでお伺いしたいのが、異文化理解の視点なのですけども、そのあたりはどのようなサポートしてもらえるのですか。

【C 社】

異文化理解、授業の中で、ですね。御市の講師、3人なのでですけど3人とも国が違います。もしかしたら彼らが持ち寄るパワーポイントなどの資料を、持ち寄られた講師が担当校で比べながら紹介する、というようなアイデアがあるかもしれません。そして中学校では、私どもがご提案をしておりますチームティーチング・アクティビティブックの中に、先生が先程ご質問されたように、異文化を感じる、グローバルな視点でものを考える、そういった授業も多くご準備しておりますので、そういったものをご利用いただきたい、と考えております。

【委員】

提案書の3ページに、ICT 支援員の配置とあるのですが、これは具体的に何をされるのでし

ようか。教育委員会学校向け業務という部分の業務内容の中の一番下に、ICT 支援の配置とありますが、具体的に何をされるのですか。

【C 社】

弊社はグループ会社のリソースを使いまして、GIGA スクール構想を推進する IT リテラシーの高い日本人のスタッフの配置をさせていただくサービスというのを、全国の一部でさせていただいていることですので、GIGA スクール構想の支援員を学校に派遣するという、そういったサービス、事業でございます。

【委員】

具体的に何をされるのですか。ICT 支援員を学校に派遣していただいて、何をされるのですか。

【C 社】

具体的なケースで申し上げますと、先生方に iPad の使い方等 GIGA スクールを進めるサポートをさせていただくために、各学校に行って、先生方に ICT リテラシーを持った講師が一緒に行かせていただいて、タブレットの使い方等を教えさせていただくものでございます。

【委員】

これは何名というのが決まっているのですか。

【C 社】

こちらは、各自治体様からオーダーいただいた人数を派遣するもので、弊社の方で人員を確保しております。

【委員】

これは見積書の金額とは別ですか。

【C 社】

別でございます。我々はこういった事業もさせてもらっているという、弊社の会社概要の一部でございます。

【委員】

最後に出ていたイングリッシュキャンプというのは、いつどのようにされるのですか。

【C 社】

そうですね。今年度もご提案をしながら、コロナの影響でなかなか機会を見いだせずにいたのですが、御市のご都合がつけば、講師が稼働できる日にちで対応させていただければと考えております。

具体的には、夏休み頃に実施が出来ればと考えておりますので、またそのあたりは委員会の先生方とご相談をさせていただければと考えております。

【委員】

生徒が個人で利用できるコンテンツがあるとおっしゃられたのですが、それは家からでも自分のタブレットで、Chromebook の自分のアカウントで入れば見られるというものなのか、どういうものですか。

【C 社】

私も、YouTube 上にチャンネルがございまして、そちらにも講師が小学生向けに話しかけるような、そして引き出すような、そういった動画を持っております。そちらをご案内することによって、子どもさん方にお家で見ていただくことも可能だと考えております。

【委員】

それでは契約したから、特別な動画が見られるというものはない、ということですね。

【C 社】

ティーチャーズ クラウドの中のを、先生がインストールをして子どもたちに配信することは可能です。

【委員長】

門真市の ALT の月例ミーティングをされているということなのですが、時間的な保障はどこでされているのですか。

【C 社】

基本的には、勤務終了後に行わせていただきまして、御市の ALT の勤務時間が 3 時 25 分までとなっておりますので、そのあとこちらに集合しまして、4 時から 5 時の 1 時間、毎月させていただいております。

【委員】

門真市も GIGA スクール構想で一人一台 PC が入り、子どもたちも既に持っていて、これからやっていくというところで、何か異文化に触れるようなパソコンを使った取り組みや、人物に慣れ親しむような取り組みなどのアイデアがございましたら教えてください。

【C 社】

小学校でよろしいですか。いろいろな国の話を聞くというものでよろしいでしょうか。事例で申し上げますと、弊社全国に 14 支店あり、3000 名の講師が ALT として働いております。学校現場をしっかりと理解した ALT が大勢おりますので、その講師たちとタブレットでつないで、そういった授業をやったりとか、そういったケースを今年度にいくつか実施させ

ていただいた例がございますので、来年度はそういった弊社の学校現場を知っている ALT とつないで、そういった子どもたちが英語に触れる機会を、どんどん増やしていければなと考えています。海外でつなぐということをされている企業さんも多いかと思いますが、まずは学校のことをちゃんと知っている、そういった ALT と子どもたちがつながることが、最初は大事なのかなといったところで、そういう取り組みを全国で実施させてもらっています。

【委員長】

それでは、これで審査を終了します。審査結果につきましては、3月の第一週に通知させていただきます。ご苦労様でした。

プレゼンテーション終了

【委員長】

これより審査についてご意見をいただきたいと思います。何かご意見のある方はありませんでしょうか。また、確認しておきたいことはありませんでしょうか。

意見交換

【委員】

パフォーマンス評価の質問をしたときに、ちょっと差が出たのかなと個人的には思います。そこを研究されている会社と、はっきりと答えられない会社があったと感じました。

【委員長】

具体的に授業の評価につながってきますよね。門真の先生方のサポートや研修、子どもたちに対してキャンプなどのいろいろな工夫や提案があり、良いことだと思いました。

【委員】

これからも企業と契約をするというスタンスをとるということは、ALT の質が良いのは当たり前という時代が来ていて、会社としてどのように英語教育に携わっていくのかというアイデア力、企画力と、それが ALT とつながっているのかというところを見させてもらいました。そこがつながっている会社と、そうではない会社があると感じましたので、これからはそういう部分が ALT 派遣業務契約の根幹になるのではないかと考え、見させてもらいました。そういうことを感じられる部分はありましたか。

【委員長】

私はこの事業の選定に長い間関わらせてもらっています。この事業は、派遣業務ではありますが、2年間、3年間やってきて、成果と課題を明確にして、次にどういうことを先生方と一緒に、門真での英語教育を作り上げていくのか、というビジョンをしっかりと持ってほしい。それがやはり大事だと考えてます。期間が1年であっても大事だと思います。その中で、門

真の実態を見て、頑張ったけれども、ここは出来たがここは出来なかったでいいと思います。そこを次のところで、どういように改善していきたいかという、そういうプランニングや提案であってほしいと思います。これが本当に、門真で生きてくると思います。

【委員】

それに関連して、委員長が聞いていただいた「3年間振り返って、どのように捉えておられますか。」という問いに対して、間髪を入れずに的確な見解が返ってこなかったというのが、正直残念なところだったのですが、ただその後に支店長の方がフォローされた「良い ALT を送るということを尽力させていただいたが、先生方の教授力の向上も自分たちの責任範囲として取り組みたい」と言われたのは、良かったと思います。今後は教員の資質向上にも関わっていききたいというところが、実現していただけるのならば、本来は我々の教育委員会の仕事なのですけど、力を借りられるのならば、ありがたいなという感想を持ちました。

【委員】

委員長も言われていましたが、そのように支店長が感じておられながら、そこが ALT に直接つながっているか、どうかだと思います。3年もされているので。そこが他の会社もそうなのですが、今後問われてくるころだと思います。英語教育が入ってきても、現場の先生方は英語教育のノウハウも乏しくて、中学校の英語の先生でもパフォーマンス評価の部分で実質的に乏しい部分がまだまだあります。そこに ALT がどう関わるか、バックアップする企業がどのように関与するのか、そこがすごく大事だと思います。

【委員長】

中学校の方から、何かございますか。

【委員】

実際に契約をして、来ていただいてから初めて分かることもありますので、なかなか難しいなと思います。

ALT 数が多かったり全国にいる、となると、質が上がるというか、蓄積されたもので出来ることもありますし、なくても新しい力で生み出していくような、そういう熱意を感じる部分もあるので、数値化するのがとても難しいなと思いました。

【委員長】

それでは、ご意見等はよろしいでしょうか。

事務局は、審査表をいつ回収しますか。

【事務局】

ただいまの時刻は 12 時 14 分ですので、例年、審査表の記入時間として 10 分程度取っていますので、10 分後に回収させていただいてよろしいでしょうか。

【委員長】

どうですか。

【委員】

もう出せます。

【事務局】

それでは、回収させていただきます。

【委員長】

それでは、事務局は審査表を回収し、集計を始めてください。これより、集計結果が出るまで意見交換とします。

集 計

【委員長】

それでは選定委員会を再開します。まず、集計結果について事務局から報告をお願いします。

【事務局】 それでは、第一次審査との総合得点での集計結果について報告いたします。

第1位は「株式会社ボーダーリンク」で164.5点です。

第2位は「C社」で160.5点です。

第3位は「A社」で137.4点です。

なお、1位と2位の両方ともなのですが、株式会社ボーダーリンクの得点を高くつけた委員が3名、C社に高い得点をつけられた委員が3名おられました。以上です。集計結果の報告を終わります。

< 総合評価 >

【委員長】

それでは、今の結果を踏まえまして総合評価に入りますが、何かご意見のある方はおられますか。1位、2位の同点が一人ずつということですね。結果的に第1位がボーダーリンク164.5点、第2位C社160.5点、ここまでにに関して特にご意見はございませんでしょうか。

【委員】

特になし。

【委員長】

それでは、令和4年度門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育事業派遣事業候補者を「株式会社ボーダーリンク」とし、もし、この団体が派遣事業に指定するのに著しく不適当な事由が生じた場合は、2位の「C社」を派遣事業候補者とします。最後に、今後のことについて事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、今後についてご説明いたします。

まず、本日の総合評価の結果を、申請団体に対して、郵送にて通知いたします。併せて、市ホームページにて選定結果を公表いたします。委員の皆様におかれましては、ホームページに公表される3月の第一週までは審査の結果について口外されませんように、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、会議録の公開については、派遣事業候補者が公開された後にしたいと考えておりますので、今後、ご発言の箇所の確認をお願いいたします。

【委員長】

ただいま、事務局より今後のことなどについて説明がありましたが、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。

それでは、以上をもちまして、令和4年度門真市小中学校外国語指導助手（ALT）派遣事業に係る門真市英語教育事業派遣事業者選定委員会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

（了）